



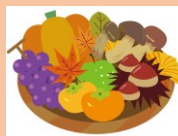
木更津市議会議員 田中のりこ

通信

みんなのひろば

No.11

発行: 通信 No.11 2025 年秋号
田中のりことみんなの会
TEL : 070-2172-8480(連絡・活動用)
MAIL : tanaka-noriko@live.jp



ブログ



facebook



みんなの会HP

米作り体験

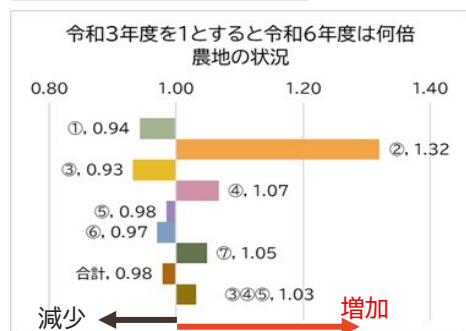
やってみたら気づいた
水や陽ざしの大切さ
楽しさ 収穫の喜び
そして おいしさ



米作り体験 絵／市原市在住 元県議会議員の山本友子さん

木更津市の遊休農地の状況

毎年度木更津市農業委員会では農地の現況調査をしています。国は令和3年度に遊休農地の区分を変更しました。遊休農地は、右の表③④⑤です。



令和6年度は、②保安全管理(不作付地)が令和3年度の1.32倍の増加でした。

★農地中間管理機構

農地を貸したい人から農地を借り受け、耕作を希望する人にまとまりのある形で農地を貸し付ける事業

農地の状況	説明
① 耕作地	耕作されている農地。
② 保安全管理(不作付地)	耕作はされていないが、維持管理(草刈・耕うん等)がされている農地。休耕地で、耕作される見込のある農地。
③ 2号遊休農地	作物(ウメ、クリ等含む。)がまばらに又は農地内で偏って栽培されていたり、農地の一部分のみで栽培されていたり、栽培に必要な管理が適切に行われていない農地。 ★農地中間管理機構が借り受け可能
④ 1号遊休農地(A分類・緑区分)	人力・農業用機械(トラクターや耕うん機)で草刈り・耕起・抜根・整地等を行うことにより、直ちに耕作することが可能となる農地
⑤ 1号B遊休農地(A分類・黄区分)	笹やススキなど多年生雑草や木が繁殖し、人力・農業用機械(トラクターや耕うん機)で草刈り・耕起・抜根・整地等では直ちに耕作することはできないが、重機を用いたり、基盤整備事業の実施等により活用できる農地 ★農地中間管理機構が借り受け困難
⑥ 非農地再生利用が困難な農地(B分類)	再生利用が困難と見込まれる農地。山林や原野化する等農地に復元することが困難な農地。
⑦ 立ち入り困難な農地	進上路が荒廃しているため、立ち入り困難で調査できない農地

収量アップは草取りと水管理

耕作放棄地を減らしたいという思いで米づくり体験を7家族でしました。田植え、水路の草刈り(2回)、稲刈り、脱穀は集合して行いましたが、あぜの草刈りは有志で、田の草取りは早朝や夕方など各自が都合の良い時間帯でできる範囲で行いました。

10/19には収穫祭を行いました。「ひとりではとてもできないけれど、みんなと一緒にだったからできた。楽しかった」「また作りたい」「米づくりをとおして初めて知ったことが多かった。貴重な体験だった」「自分で作ったお米はおいしい」と参加者の声。

農家の方は「今度は土づくりだな。耕運機の使い方を教えよう」の呼びかけに、「来年も米作りしたい人」「はーい」ということで来年は土づくりで収量アップに挑戦です。

▶米作り参加者を募集します。詳細は裏面にて。



休耕田を減らしたい! みんなでおコメをつくろう 活動報告③

米作りの近況を前号に引き続き、紹介します。



7/20 穂が出た



8/17

たわわに実る稲穂



8/24 酷暑を避け手作業で稲刈り
5:00~8:00 と 16:00~17:00



8/31 脱穀と粳摺り(農家から農機具を借りた)
4畝(0.4反)で予想を上回る収穫



10/19 収穫祭 お釜でごはんを炊き、豚汁をつくる

市民目線で暮らしと政治をつなぐ



出前講座「教えて!プラスチックごみの出し方 変わる」

2025.8.20 実施 51 人参加

改めて、市民の関心度が高いことがわかりました。資料は30部用意していたのですが、なんと51人も参加し、急遽資料を用意しました。環境部の10月から変わるごみ分別の説明のあと、その後、会場の参加者が実際にごみを分別してみました。

これまでは黄色いごみ袋で出せたのは、容器包装プラスチックだけでしたが、製品プラスチックも出せるようになりました。職員は2種類のハンガーの分別方法を、わかりやすく説明していました。



参加者からは「ごみ分別の方法は、実際にみた方がわかりやすい。このような講座は今回が初めてと知り驚いている、ぜひ、動画配信をやって周知に努めてほしい」と建設的な意見がありました。また、「実際にリサイクルしているのか工場をみたい」と今度企画することにしました。

2種類のハンガー



左…すべてプラスチックなので、黄のごみ袋で
右…すべてプラスチックでない場合、燃やせる部分が多ければ、赤いごみ袋。燃やせない部分が多ければ青いごみ袋で出してください。



暮らしに香る本シリーズ ③
戦争というもの

半藤一利(はんどうかずとし)

2020年、昭和史研究の半藤一利さんが91歳で亡くなる一年前に書いた本です。

今の日本では、日本がアメリカと3年8ヶ月にわたって戦争をしたことを知らない人が居て、「それでどっちが勝ったの?」と尋ねる人さえ居て、開いた口がふさがらないと嘆いています。その半藤さんの「人間の眼は歴史を学ぶことではじめて開くものである」と見開きの直筆を読んで深く頷いてしまいます。でも戦後の日本は幸せな80年でした。今現在、世界のあちこちで戦争は起こっているのですから。

この本が読みやすいのは当時の人々の名言やスローガンを元になっているからです。山本五十六、岡倉天心を始め、昭和17年、大東亜戦争一周年記念国民決意の標語を応募した国民学校五年生女子の「欲しがりません 勝つまでは」があり、私もよく知っていますが、戦後32年もたってから、実は少女の父親(天理教布教師)がほんとうの作者であると判ったそうです。(宮下)



教育のひろば

教育現場の教師からのつぶやき⑪
ネタ帳

とてもとても暑い夏がやっと終わり、どうにか『秋』に季節は移り変わった様です。

高校3年生は、受験本番になって来ました。私が担当する高校2年生たちには、春からずっと言っている事があります。

『ネタ帳を作ろう!』です。お笑いのためのネタ帳ではありません。来年の入試の面接や小論文のためです。急に面接や小論文の準備と言われても、何も浮かんで来ないものです。薄っぺらい文章しか書けません。日頃から社会に関心をもって、アンテナを張って生活をして、気付いたことはメモしておきましょうという事です。

これは、大人の私たちも同じ事だと思うのです。『選挙』と言われて、急に立候補者の話を聞いても立候補者の真の姿は分かりません。

本当に私たちが求めている事に真摯に取り組もうとしている人なのか? 日頃から社会に関心を持って、アンテナを張って暮らしましょう。全ての人がより暮らし易い世の中にするために。

(YAPPY)



こんなに違う黄色のごみ袋(プラスチック用)45ℓ 価格の調査活動

黄色のごみ袋45ℓの価格が店によってこんなに違いました。(表参照 調査2025年10月)

Q どうして店によって価格が違うの?

A 赤と青のごみ袋は、木更津市が作り店で販売してもらっています。売れた分は、木更津市のごみ処理費用に充てます。リサイクルされるものを入れる黄と緑のごみ袋は、木更津市が型を決めただけ。各店が注文し価格を決め、店の収益になります。

店	税込(円)
A店	297
B店	294
C店	284
D店	273
E店	228
F店	220
G店	218
H店	198
I店	198
J店	198
K店	185

Q 黄と緑の袋のものはリサイクルされているの?

A リサイクルされています。令和6年度では、リサイクルした収入が約1億170万円ありました。

Q 油の出し方がわかりにくい。教えて?

A わかりにくいものを表にしてみました。

容器	プラスチック	ビン・カン
食用油	さっとすすいで黄のごみ袋	さっとすすいで緑のごみ袋
ヘアオイル	さっとすすいで黄のごみ袋	青いごみ袋
化粧品など	さっとすすいで黄のごみ袋	青いごみ袋
洗剤や非食品	さっとすすいで黄のごみ袋	青いごみ袋

リサイクルできるものを赤や青のごみ袋に入れるより、分別して安価な黄や緑のごみ袋に入れてみませんか。



色	用途	価格
赤	燃やせるごみ	一律
青	燃やせないごみ	
黄	製品プラスチック	各店設定
緑	びん・かん・ペットボトル	



学習会「放射能汚染土のばらまきをやめよう

-除去土壌の復興・再生利用の問題点と危険性」 2025.10.4

講師NPO放射能監視センター(ちくりん舎)青木一政さん 36 人参加

福島原発事故前は、安全に再利用できる放射能の基準は100Bq/kgでした。原発事故で生じた大量の土壌を環境省は、管理されたりリサイクルとして8,000Bq/kg以下は道路の基盤など「資材」に活用することにしました。

本来なら8,000Bq/kg以下のうち、100Bq/kgを超える土壌は低レベル放射性廃棄物として扱われるべきです。



参加者からは「とても勉強になった」「よかった。知らないことばかりだった」と感想をいただきました。また、地域の課題に困っていた方たちが、複数参加され、学習会では講師からのアドバイスがあつて今後の活動の方向性も見つけた学習会でした。

た」と感想をいただきました。また、地域の課題に困っていた方たちが、複数参加され、学習会では講師からのアドバイスがあつて今後の活動の方向性も見つけた学習会でした。

●△◆お知らせ伝言板○▼◇

070-2172-8480(予約・連絡・活動用)

米作りしたい・関心がある人へ お米をつくろうよ説明会

12月7日(日) 11:00~12:00

八幡台公民館

・この日都合が悪い方は Tel またはメールをください。説明会主催:田中のりことみんなの会

2025年度は「無農薬でたい肥も使わないでやろう」と参加者で決めました。農家の方から「収量は期待せずに体験を」とアドバイス。ところが前年度までの栄養が田に残っていたようで「こんなに収穫できて万々歳」。米作りにかかわる諸経費と収穫した米は参加者で按分しました。(詳細は説明会にて)